



問 地域防災計画を問う

答 速やかに実施

問 ①ハザードマップの変
更状況②防災計画書の
見直した項目③災害ボラン
ティアの運営マニュアルの
活用方法④活動拠点、資機
材等の活動環境の整備の進
捗状況⑤災害ボランティア
リーダー、コーディネーター
の募集状況、育成状況。

総務課長

①町内のハザード
マップの作成は、支流の氾濫、
想定を超える降雨、高潮、内水
による氾濫は考慮されておら
ず、山ノ井川・花宗川の氾濫の
おそれが生じた九州北部豪雨の
ような事態には対応していな
い。このような氾濫の危険など
にも対応した独自のハザード
マップの作成を考えているが、
両河川は、浸水想定区域の設定
の基礎となるデータも乏しく、
局所的に浸水が想定される隣接
市との調整も必要で、相当の作
業を伴うため出来ていない。

②大木町地域防災計画は、今
年度中を目途に見直し作業に着
手。1点目、指定緊急避難場所
の指定。2点目、避難行動要支
援者名簿の作成。3点目、屋内
での待避等の安全確保措置の指
示。4点目、被災者の生活環境
の整備を図る被災者保護対策の
改善。5点目、地区防災計画の
策定。

③今後、社会福祉協議会と協

議を重ね、相互の体制整備や災
害ボランティアセンターの運用
マニュアル等を作成し、災害時
におけるボランティア活動に関
する協定書を締結し、計画の円
滑な実施、推進に取り組んでい
く。

④災害ボランティアの活動の
環境整備、応急対策に関する取
り組みでは、災害ボランティア
の受け入れ・支援計画として、
災害ボランティアセンターを開
設。

⑤募集・育成は、研修会や避
難訓練を通じて地域住民に対す
る共助意識の向上を促している。

問

避難所への進路を塞
ぎかねない危険な場
所がある。建物は耐震診断
のもと安全性が担保されて
いるが、避難所に隣接する
工作物（バックネット等）
の点検及び改修等、計画
は。

学校教育課長

付属施設は、
教育委員会や学校で点検、管理
を行っている。緊急性の高い箇
所から整備・補修を行ってい
く。中学校のバックネットの件
は、現在、建設水道課に設計見
積もりを依頼し、補修または改
修が必要かなど検討し対応す
る。

問 避難路の中に、水害時
には歩行や車両の通行
が困難な場所がある。水害
地域の住民参加のもとで
直しを行うべきでは。

総務課長

地域の自主防災会と
一緒に避難訓練を行い、避難通
路を確保する。また、専門員も
配置し、各地区に呼びかけ避難
訓練を行い災害時に対応できる
体制づくりに取り組んでいく。

問

被害を最小限にとど
めるように平素から
訓練、研修、広報を習熟・
習得し、どのような手だて
で自らを守る自助の意識改
革を行うのか。自主防災組
織が担う共助をどのように
推進し、行政が担う公助を
どのように連携するのか、
重要な役割を担うのは社会
福祉協議会と民生委員さん
ではないか。行政が担う公
助と地域住民の意識改革を
どのように推進し、いつか
ら実行・実施できるのか。

総務課長

日ごろから隣近所づ
き合い、声かけなどを行い、高
齢者や災害時に避難が困難な方
をどのようにして災害時に避難
所まで安全に避難してもらるか
地域の方と一緒に考え、また、
防災意識の育成のために、行政
が地域に入りお互いの共助が大
切だということを一緒に話し合
いながらやっていかなければな
らない。今後は、社協、民生委
員、総務課、福祉課と一緒に
なって取り組み、今まで以上に
地域に入り込んで防災意識の育
成に努める。



中学校バックネット

老朽化したバックネットの脚